

全国訪問教育研究会

第38回全国大会（埼玉）開催要項

2025年4月16日

■実行委員長挨拶■

第38回大会（埼玉）が、開催されます。埼玉県で開催されるのは、これで4回目となります。

1回目。第8回大会（1995年）は、秩父の温泉旅館を会場として開催しました。「高等部における訪問教育」を求める声が少しずつ大きくなりつつあり、この大会での分科会から「全国訪問教育親の会」が結成されました。2回目。第24回大会（2011年）は、3・11の悪夢が冷めやらぬ中での開催で、会場となるソニックシティでも計画停電が実施されるかもしれない、と危惧された大会でした。3回目。第30回大会（2017年）は「関東大会」と銘打ち、会場を埼玉にして開催されました。「訪問教育のこれまで、そしてこれから」と題したシンポジウムを開催し、訪問教育について仕切り直しを試みました。そして4回目となる第38回大会（2025年）を迎えたわけです。

さて、全国訪問教育研究会は、これまで38年間、1年も大会を休むことはありませんでした。コロナ流行の時期には、オンラインで都合4回を乗り切ってきたわけですが、その4回を通じて『全訪研大会の役割とは？』ということを考えるようになりました。集まらなくても、大会の役割は果たされるのか、参加者の要望には応えられるのか…？

果たして、全訪研に求められているのは何なのでしょう。それを考えるために、全訪研第1回大会で宣言されました「全国訪問教育研究会結成宣言」を引用してみます。

「昭和54年以来、全国で実施されている訪問教育は、現在各地それぞれの厳しい条件の中で、懸命な取り組みが続けられています。訪問教育をとりまく、さまざまな困難な条件は、訪問教育が子どもも教師も孤独な中でおこなわれているために、一層困難なものとなっています。孤独の教育であるからこそ、私たちは広く、強く手を結びあわねばなりません。家庭訪問教育、施設訪問教育を問わず全国のよりよい訪問教育を願うすべての者が実践研究と情報交流ができる場としての「全国訪問教育研究会」の結成をここに宣言します。1988年7月29日 全国訪問教育研究会結成大会 参加者一同」

全訪研は結成以来、「手を結ぶ」「実践研究」「情報交換」を大切にしてきた、ということになります。「実践」と「情報」については、今までに9回もの全国調査を実施したこと、「こんにちば」での実践紹介をコツコツと行ってきたことなどの蓄積があります。では「手を結ぶ」はどうでしょう。これは、大会に担当者が集まることで知り合いが増え、続けて参加することでこそ、親交が深まってゆくものです。リモートでは叶えられない全訪研大会の役割は、ここにあると思います。

参加者の皆さんが、実践や制度について学習を深めて頂くことだけでなく、たまたま隣に座った人と「手を結ぶ」ことも、それと同じ価値があるということです。

どうか皆さん、全国の担当者同士で親交を深める機会を、積極的に活用して頂きたいと思います。

全国訪問教育研究会第38回全国大会（埼玉）実行委員長
長 正晴（全国訪問教育研究会 事務局長）

■大会テーマ■

「一人ひとりのいのちが輝く教育をめざして～訪問教育の次なる課題の模索を～」

■開催日時■

2025年8月4日（月）12:50～16:50（受付開始12:00）

8月5日（火） 9:30～15:45（受付開始9:00）

■会場■

RaiBoc Hall レイボックホール(市民会館おみや)

埼玉県さいたま市大宮区大門町2-118 大宮門街4-8F(JR 大宮駅東口より徒歩3分)

■主催■

全国訪問教育研究会

■後援(申請中を含む)■

文部科学省

こども家庭庁

全国特別支援教育推進連盟

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

全国特別支援学校知的障害教育校長会

全国特別支援学校病弱教育校長会

社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会

全国訪問教育親の会

全国病弱教育研究会

全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会

認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

埼玉県特別支援学校校長会

■大会日程■

8月4日(月)

12:50 開会行事(～13:20)

13:30 大会記念上映「帆花」(～14:45)

14:50 講演(～15:50)

16:00 全訪研総会(～16:50)

8月5日(火)

9:30 分科会(～11:30)

休憩 ※昼食は各自でご用意ください。

13:00 分科会(～15:00)

15:15 閉会行事(～15:45)

■内容■

(1)開会行事 8月4日(月)12:50～13:20

- | | |
|----------|---------------------|
| ①開会挨拶 | 樫木 暢子(全国訪問教育研究会会長) |
| ②実行委員長挨拶 | 長 正晴(全国訪問教育研究会事務局長) |
| ③来賓挨拶 | 福田 智佳子(全国訪問教育親の会) |
| ④基調報告 | |

(2)大会記念上映 ドキュメンタリー映画「帆花」 8月4日(月)13:30～14:45

(3)講演 西村理佐さん 8月4日(月)14:50～15:50

映画「帆花」は、22年1月に公開されてから、じわじわと全国的に広がりを見せています。

「生後すぐに『脳死に近い状態』と宣告された帆花ちゃん。母親の理佐さん、父親の秀勝さんと過ごす家

族の時間にカメラは寄り添う。常に見守りが必要な帆花ちゃんとの生活は誰にでもできることではない。でも、理佐さんと秀勝さんの2人にとってはあたりまえで、普通のこと。（以下略）」（映画「帆花」公式サイトより）

西村帆花さんは、埼玉県立宮代特別支援学校で訪問教育を受けています。今回、埼玉で大会が開催されることから、ぜひこの機会に全国の訪問教育担当者に見てもらいたい、と考えて企画しました。

お母さんの西村理佐さんは、重度障害者・生涯学習ネットワークにも加盟する訪問カレッジ「Be Prau」を主催なさっています。帆花さんは25年8月現在で、高等部3年生です。高等部卒業後の学びについては、昨年度の全訪研大会でもシンポジウムを実施したところですが、訪問籍で学んで来られた人たちの、卒業後の進路や生き方、その支援について、全国の担当者とともに考える機会にするために、お母さんから話を頂くこととしました。

(4) 全訪研総会 8月4日（月）16:00～16:50

全訪研の昨年度の活動、今後の活動方針について話します。

(5) 分科会 8月5日（火）9:30～11:30 13:00～15:00

分科会名		分科会のねらい（◇共同研究者）
1	健康・身体づくり	障害が重く、日常的にさまざまな健康管理の必要な子どもに対する関わりについて考えましょう。姿勢づくりや呼吸支援等、子どもの活動を引き出すために必要なことについて講義と実践を交えて交流しましょう。 ◇竹脇真悟（日本福祉大学教育・心理学部 講師）
2	コミュニケーション	重度・重複障害児とのコミュニケーション関係を築くための支援や配慮について、訪問での教育実践を交えて交流しましょう。それぞれの発達段階にある子どもを丁寧に観察、その主体的な反応を活用して主体的・対話的な学びを深める視点から、幅広く協議・討議をしましょう。重症児と言われる子どもたちは「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合しましょう。 ◇細渕富夫（長野短期大学 教授）
3	授業づくり・教育課程Ⅰ	授業・教材づくり、複数訪問やスクーリング、行事への取り組みなど、日々の実践や悩みを交流しあいましょう。教育課程の観点から、訪問学級の子どもたちにふさわしい学びと生活について討議しましょう。よろしければ、教材もご紹介ください。 ◇大江啓賢（東洋大学文学部教育学科 准教授）
4	授業づくり・教育課程Ⅱ	表出や表現を援助する手段として、ICT 機器等が活用されています。GIGA スクール構想の推進で配布されたタブレット端末の活用を含めて、教材や授業づくりについて学び合いましょう。よろしければ、教材もご紹介ください。 ◇内田孝洋（埼玉県立本庄特別支援学校 教頭）
5	病院や施設における教育	“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児や施設入所児者の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内施設内訪問教育の実践を深めていきましょう。 ◇栗山宣夫（育英短期大学 教授）

6	教育と地域での生活支援 ー医療・福祉・教育の連携ー	子どもたちの学びと生活を豊かにするためには、「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、地域支援のネットワークづくりが大切になっています。医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたち、内部疾患のある子どもたちなど、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と地域での生活を考えていきましょう。 ◇袴田悠子（埼玉県医療的ケア児等支援センター） ◇丹野良子（埼玉県医療的ケア児等支援センター 地域センターかけはし） ◇下川和洋（全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぽーと研究所理事）
---	------------------------------	--

※各分科会では参加者によるレポート発表を募集しています。詳細については次の項をお読みください。

(6) 閉会行事 8月5日（火）15:15～15:45

- ①実行委員長挨拶 長 正晴（全国訪問教育研究会事務局長）
- ②謝辞 檜木 暢子（全国訪問教育研究会会長）
- ③次回開催地から一言
- ④閉会挨拶 中野 良（実行委員会事務局長）
- ⑤うた「小さないのち」

■分科会レポート発表について■

分科会でのレポート発表を希望される方は、6月20日までに次の①～④についてご連絡ください。

- 1 分科会名・氏名・学校名または所属先等
- 2 メールアドレス
- 3 レポートタイトル
- 4 レポート内容に関して個人情報保護等の配慮が必要かどうか

レポート発表に関する連絡先

全国訪問教育研究会 全国事務局 中野 良（r.nakan0219@gmail.com）

[レポート発表に関する注意事項]

- ・発表されたレポートは「訪問教育研究第38集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼については別途ご連絡します。
- ・レポートの配布についてはレポーターの判断を尊重します。配布する場合、個人情報保護の観点から、発表を行う分科会の参加者のみを対象とします。
- ・大会実行委員会で用意できる機器はプロジェクターとスクリーンのみです。パソコン等の端末やその他の機器は各自でご用意ください。

■事前申込みについて■

○期間 2025年5月1日から7月30日まで

○方法

チケット販売サービス「Peatix」を使用します。

次の URL または QR コードからイベントページを開き、「チケットを申し込む」からお申し込みください。

申込みの際は Peatix から確認メールが届きます。Peatixの注意事項をお読みの上、お手続きください。

確認メールが届かない場合は次頁の問い合わせ先（全国事務局長）までご連絡ください。

<http://zenhoken2025saitama.peatix.com>



学校等、所属先から公金参加の場合には Peatix では申込みできません。事務局で代わって申し込みますので、本頁下の問い合わせ先（全国事務局長）までご連絡ください。

○参加費 **※払込み後の返金はありません。予めご了承ください。**

会員 3000円（研究集録あり）

一般 5000円（研究集録あり）

学生・保護者・家族 1000円（研究集録なし）

■当日申込みについて■

○期間 2025年7月31日から大会当日まで

○方法

本要項末尾の事務局長連絡先までご連絡ください。参加費は当日受付でお支払いください。（現金のみ）

○参加費

会員 4000円（研究集録あり）

一般 6000円（研究集録あり）

学生・保護者・家族 1000円（研究集録なし）

■研究集録について■

大会終了後に「訪問教育研究第38集」を送付します。今回の大会の内容や訪問教育に関する資料を掲載します。2026年1月発行予定です。学生・保護者・家族の方で研究集録をご希望の場合は、当日の受付でお申し出ください。

問い合わせ先

全国訪問教育研究会事務局長 長 正晴 chou_masaharu@yahoo.co.jp

全国訪問教育研究会会長 榎木 暢子 kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

全国訪問教育研究会ホームページ <http://zenhoken.com/> 本要項のダウンロードができます。